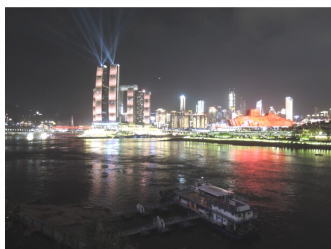


上海・重慶・西安の旅に参加

4月20〜25日、三重県連企画の「戦争遺跡見学と歴史散策の旅」上海・重慶・西安に参加した。

三重県連から10人、愛知県連から7人の参加で、両県連の親睦も深まった。愛知県連も今秋10月に重慶を含む旅行を計画しているのを、その参考になることを含めて報告したい。

重慶はかつて「山城」「江城」と呼ばれた。長江と嘉陵江との合流地点にそそり立つ岩盤地帯にできた街である。上海からの飛行機が約3時間遅れで飛び立ったので、まず有名な重慶の夜景を堪能した(写真左)。おびただしい高層ビルが林立している。その中に金融センターやオペラハウスなどもあった。観光船も行き交う。



翌朝は市の西にある「鶯嶺(がれい)公園」に登った。緑の樹木がとても大切にされ、ここから見下ろす嘉陵江と都市の景色が素晴らしい。山頂の展望台から見た(写真下)。



私はここで献花し(写真下)、合唱して黙祷を捧げた。武漢から爆撃機が飛来し、残ると長江沿いの他の街にも焼夷弾を落として帰ったと年配のガイドさんは語った。当時の日は



重慶は昨年「あいち平和のための戦争展」で映画『苦干』をふくむ資料の印象が強かったが、その形跡は無く、わずかに「重慶大爆撃惨案遺址」で実感できた。この惨案館もかつて川沿いの崖に掘られた防空壕のひとつであった。

重慶は昨年「あいち平和のための戦争展」で映画『苦干』をふくむ資料の印象が強かったが、その形跡は無く、わずかに「重慶大爆撃惨案遺址」で実感できた。この惨案館もかつて川沿いの崖に掘られた防空壕のひとつであった。

本新聞(大本営発表)で、中国の発表より遥かに多くの戦果を上げた、との紙面が展示されているのが印象に残った。戦争は一人でも多くを殺すことをよしとする。

もう一つの見学地「磁器口(じきぐち)」は古鎮で狭い範囲に多くの人々が暮らした古い商店街である。

今では観光客目当ての食堂街と化している。その中で可愛いロボットの少年が矢研で薬を調合している風景に出会った。そこは薬屋というか飲むのではなく匂い袋を売る店であった。安眠や、ストレス開放など5種類の薬効がある袋から選び、2袋を買って求めた。わずかの値引き交渉をした。私のいつまで経っても上達しない中国語など通じないが、今はスマホが即時に翻訳してくれる。

先の上海では、魯迅の旧居と内山書店の跡を見た。そこは旧の日本人街にあり、「大陸小村」とか「山陰道」などの地名が残り、かつて日本人が住んだ住居群が使われているのが不思議だった。

西安ではやはり「兵馬俑」が圧倒的な迫力で迫ってきた。その兵士の一体一体の表情、青銅の馬車の馬のくつわのベルトが2200年の昔にすでに今のものと変わりなく完成していたことなど、驚かされた。

県連・支部だより

▼茶友会

5月17日(土)午前10時30分から、会費1500円

▼漢詩の会

5月25日・日曜日 午後2時から(会費500円、会費無料)

▼中国語教室

(水曜日・初級講座)と木曜日・初級、中級、詳しくはお尋ねください

▼緑支部

9月8〜14日に中国東北旅行を計画しています(今号に折込チラシあり)。

▼熱中支部

中国映画「私は菓の神でない」を観る会を4月20日(日)に

に行い大盛会でした。5月10日に労働会館で支部総会で、大木一則さんの講演会を行います。

▼豊田支部

連続講座「中国力フェ」では、日中戦争をめぐり現代に入ってきた。参加者も多く好評です。

▼3月から「仲間増やし月間」に入っています。

6月の「全国集会」に向けて頑張ります。

▼その一環として、

5月11日に「東海ブロック会議」を愛知県連で午後1時半から行います。

▼各県連の進めている取り組みや、抱えている困難点などを

出し合い、話し合います。

▼10月18日〜25日に愛知県連企画の

中国旅行(今年は重慶と張家界)を計画しています。

中国ものしりコーナー

56 狗不理包子

少し小ぶりの肉まん「狗不理包子」。天津市の名物として、中国全土でも知られています。



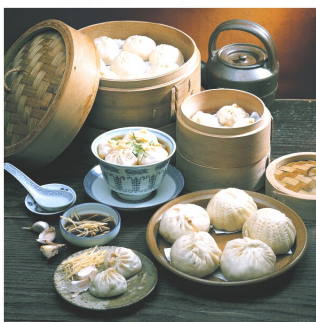
非常に品質の高い包子を提供してました。その美味しさが評判を呼んで店は大いに繁盛しました。またある時、天津に駐在していた将軍・袁世凱が、北京に「狗不理包子」を持ち帰り、当時の権力者・西太后に贈ったところ、それを食べた西太后が絶賛しました。そのため、さらに名声は全国に広まることになりました。

「狗不理包子」は1858年に創立された、中国で最も歴史の古いブランドの一つです。「狗不理」とは本来「犬も相手にしない」との意味ですが、なぜこのような名前が付けられたのかは諸説あります。



最も一般的な説は幼少時に「狗子(犬の子)」と呼ばれていた創設者の高貴友が、肉まん作り

に精を出し、それ以外の事に一切構わなかった(不理)ことに由来しています。高貴友は包子作りの技術だけでなく、材料も入念に吟味し、



木俣博